Japan Society of Obstetrics and Gynecology



に対処するべきであろう．

**9．僻地妊・産・褥婦ならびに新生児緊急への電話コンサルタント法の応用**

（鹿児島大）○竹中　静広，折田　勝郎
牧　美輝，森　一郎

最近の地方における過疎現象は，社会的にきわめて深刻な諸問題を提起しつつあるが，医療の面でも例外でなく，診療対象者が少なくなるにつれ，専門医をはじめその他の医療関係者も減り，残された人々の医療は危機に頻している．周知のように本県でも，離島や僻地が多く，加えて生産施設が乏しいため，県外への人口流出がはげしく，このような悪循環が，医療環境の貧困さと相俟つて，地域医療の悪化に拍車をかけているような現状である．なかでも母子緊急は，出血などのように突発的で致死的な事態をおこすことが多いので，その対策は集眉の問題とさえなつてきた．そこでわれわれは，県衛生部の協力のもとに，離島や僻地における緊急時対策の一つとして，電話コンサルタント法を設け，一昨年9月より実施している．この電話コンサルタント制度は，離島や僻地，更には準僻地の母子保健関係者による妊産婦管理や，妊婦の自己管理の最中に見出された異常とか，突発的な産科緊急事態に対する適切な指示を目的として発足したものであり，その構成は，鹿大産科婦人科教室をセンターとして，各地域からの連絡に対し，現地の医師と連絡をとり，応急処置を依頼するほか，センターやその他の病院に患者を収容するようになつており，諸連絡に要した全ての経費，センターへの指導料の一切は，県が負担することになつている．なお現地よりの連絡は，原則としてあらかじめ配布されている電話コンサルタント連絡票にもとづいて行なわれることになつている．次に本制度発足以来，今日までの電話連絡33件の内訳であるが，妊産褥婦に関してが27例，新生児緊急が6例で，そのうち危機を回避できたと思われるものは，母21例，児12例，計33例で，連絡後の母体ならびに児（4例は連絡時すでに胎内死亡，1例は輸送途中の胎内死亡）の死亡は0であつた．なお電話回数は3～4回，県の負担は2,000円前後のものが最も多く，比較的わずかな経費で多くの生命を回避することができた．また母子緊急に対するセンターの推定診断と，各病名別の危機回避例では，前置胎盤や，流早産，妊娠中毒症などが多かつた．以上離島，僻地であるが故に専門医の診療を受けられない．すなわち医療受益の不平等という制度上のひずみが避けられがたい現在，きわめて急を要する母児緊急の切羽つまつた対策として，本制度を実施したところ，わずかな経費で，貴重な命が救われた例をいくつか経験したので報告した．

**10．妊娠時の NEFA の動態について**

（東京大・分院）
○石井　明治，高木　秀雄，小林　博

研究目的：Burt, Alvarez, Ante Dravančič (Amer. J. Obstet. Gynec. 80：965, 1960, 77：743, 1959, 109：666, 1971）等により妊娠中のＮＥＦＡについて多くの報告がある．今回私達は，妊娠中毒症に注目し，その血清脂質とくにＮＥＦＡが，正常妊娠とくらべどの様な変動を示すかについて検討し，この面から妊娠中毒症を解明する一つの手がかりを得たいと考えて，本研究を行なつた．

研究方法：当科外来受診又は，入院患者について，妊娠初期より後期にわたり正常に妊娠を経過している妊婦と，いわゆる中毒患者を無差別に抽出し，それぞれ絶食後，早朝空腹時の血清について，血清脂質，とくにＮＥＦＡを中心として，phospholipid, Triglyceride, $\beta$-lipoprotein について測定した．

又，正常妊婦，中毒症妊婦について，ブドウ糖投与後の血糖値とＮＥＦＡとの関係及びエピネフリン投与後の血糖値とＮＥＦＡとの関係について検討した．

測定法は，和光純薬のキットを用いた．

研究成績：血清ＮＥＦＡは，正常妊婦の場合，妊娠月数のすすむに従い，やや上昇する傾向がある．中毒症妊婦の場合，ＮＥＦＡ値が正常妊婦に比して高値を示した．Triglyceride, phospholipid は，妊娠月数の進むに従い，上昇した．

正常妊婦に，脂肪酸動員因子として知られているエピネフリンを投与すると，まずＮＥＦＡの上昇がひきおこされ，時間的に少しおくれて血糖値が上昇した．

又，ブドウ糖を投与した場合には，ＮＥＦＡが減少した．

**質問**　（岡山大）吉岡　保

1）妊娠経過におけるＮＥＦＡの変動について検討されていますが，中毒症において Nelson は中性脂肪のみ有意の差がみられましたとの報告をしていますが，中性脂肪の変化が中毒症のときにみられましたか．

2）ノルアドレナリン，アドレナリンを負荷した場合の血圧などのその他のパラメーターについても check されましたか．

又その量を中毒症患者に用いた時に危険は感じられま

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology



せんでしたか．血圧上昇とＮＥＦＡの動員について何か関連がみられましたか．

**解答**　（東京大・分院）石井　明治

1）中毒症の場合のＮＥＦＡの変動について目下検討中です．今回は，ノルアドレナリン，アドレナリンに対するＮＥＦＡの反応のみに着眼いたしました．

2）患者に，ノルアドレナリン，アドレナリンを負荷した場合，危険を予想し，連続的に血圧，脈搏等について，測定を行なつております．

高血圧妊婦の場合ＮＥＦＡの上昇が著明にみとめられました．

**解答**　（東京大・分院）小林　博

本研究の目的は妊娠中毒症等に於ける代謝異常に自律神経の状態がどのように関連しているかという点についてＦＦＡストレス等の自律神経の変動に敏感に反応することが判明しているので，自律神経系のNeurotransmitterと考えられるNoradrenalin及びadrenalinを負荷して血中ＦＦＡの変動をみたわけであるが，高血圧妊婦では反応がやや強くネフローゼ型腎炎では反応性がやや低下している様に思える．しかし結論的なことは今後の検討にまつ．

**11．指尖容積脈波検査の refreshing——新波形分類法と妊娠中毒症例の脈波について——**

（水戸赤十字病院）
○星合　久司，木村　喜三，岩崎瑠璃子
吉田　威，加瀬　芳夫

指尖容積脈波検査の，妊娠中毒症早期発見，治療効果の判定，予後の推定に対する実用価値については，産科領域で認められて来ている．しかし，脈波振巾値計測が出来なかつた段階で，研究は長い空白時代をおいた．その間，内科領域で，２段較正脈波計の開発とともに，心血管系疾患検査法として有用性がとり上げられ，波形に関する理論づけと，応用面とに著しい発展を来たした．本研究は，産科領域における，脈波検査のrefreshingとして，産科の立場からの脈波解読についての再検討と応用面の拡大とを目的とし，水戸日赤産科における検査成績からえた知見を報告する．

新波形分類法，星合の原法，Ａ，Ｂ，Ｃを保存し，産科の特殊性を考慮し，内科的見解を参考にし，ＡＣ波（従来のＢＣ波）を含め，簡易式な分類法を考案した．Ｃ型には三角波，アーチ波，ＡＩ波を含め，Plateau波には分類上に問題点があることを提起した．実際例では，切迫早産例における治療効果や，産褥高血圧の入院治療による症状，脈波の改善例を紹介した．更に，妊娠中毒症患者の仰臥位から，側臥位に体位変換をさせることで，血圧の改善と共に脈波々高の増大を示す例を報告し，今後の妊婦管理の上に参考になることを提唱した．今回は，脈波の定量的検討が可能になつたことから，本検査が，再び新しく産科領域に於いて応用面が拓けることの見通しが明るくなつたことを報告し，そのスタートの一端を紹介した．

**質問**　（日本医大第二）室岡　一

Plateau波の意義について御意見を伺いたい．私は一概に病的といえないと思う．

**解答**　（水戸赤十字病院）星合　久司

Plateau波は，末梢血管の様相を表現するというよりも，むしろ，心拍力の影響が大きいようである．すなわち，Plateau波でも，これをgain upすると，Ａ型波を示すものも多く見られ，又，Ｃ型波を示すものもある．従つて，Plateau波の所属については，更に検討を必要とする．私は，むしろ本波型は別途に取扱うべきかと考えている．

**12．興味ある子癇の３症例**

（信州大）福田　透，曽根原衛雄
○飯沼　博朗，呉屋　順一
（諏訪赤十字病院）
宮坂　英男，木村　守之，堀口　隆彦
（須坂病院）太田　哲夫

子癇は子宮破裂，早剝，前置胎盤などと共に妊娠末期における最も重大な疾患の１つであり，信大では1955年～1970年の間に35症例（発生頻度全分娩数の0.32％）を経験している．最近信大並びに関連病院で興味ある３症例を経験したのでその概要につき報告する．

症例１は28才の初産婦．妊娠経過中は異常なく42週０日陣発で入院．中毒症状は全く認められなかつたが，入院後約10時間目に破水と同時に突然痙攣発作を惹起す．V.E.により2.7kgの女児を娩出，経過も良好で無事退院す．

症例２は26才の初産婦．32週頃より既に浮腫出現．39週２日頭痛など訴えた為，中毒症治療の為入院．夜になり血圧上昇があり，翌朝早く痙攣発作を突発す．3,350gの女児を死産するも，分娩終了迄に31回の発作あり，更に分娩後も発作が頻発し，アレビアチンの静注により初めて鎮痙す．尚，発作回数は総計81回であり，現在は全く異常なく家事に従事している．

症例３は29才の１回経産婦．前回分娩後，高血圧が持

NII-Electronic Library Service